

平成25年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
人権教育の推進	生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、他者を認める人格形成を推進する。 ① 特に、いじめ問題を意識して他者を思いやり認める教育を推進する。 ② 生徒人権委員会活動の充実を図る。	活動計画 ① 教職員が生徒の人権を尊重する態度を示すことにより、生徒の人権感覚を高める。 ② 生徒人権委員会活動等とおして、支え合う仲間づくりとリーダーシップの育成に取り組む。	活動計画の実施状況 ① 教職員が生徒の障がいや個性を十分に理解し、それらに配慮した言葉かけを行うよう努めた。 ② 人権交流事業南部生徒部会への参加、文化祭への展示発表など、リーダーシップの素養を育成する活動を行った。	総合評価 (評定) A (所見) 自分を大切にしたり他人の心情を考えたりする気持ちや態度など、生徒の人権感覚が育ってきており、本年度もいじめの件数は0であった。	「さん付け呼名」では指導が難しい場面もあると思われるが、生徒の年齢や卒業後のことなどを考えると、「さん付け呼名」は素晴らしい取組であるので、継続してほしい。 対人関係で悩んでいる生徒が教員に相談して安心することができた。このような関係作りを今後も続けてほしい。
		評価指標 ① 全教職員が、生徒に接する時や職員会議などの際に「さん付け呼名」を行う。 ② 生徒人権委員会で人権啓発のための掲示物を作成し、文化祭で展示する。	評価指標の達成度 ① 全教職員が、生徒に接する時や職員会議などの際に「さん付け呼名」を行った。 ② 生徒人権委員会で「ボランティア活動について」を作成し、文化祭で展示した。		
個別の指導計画の効果的な活用	生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を推進する。 ① 一人一人の生徒の実態や、背景となる生活環境等を正確に把握し、個に応じた指導及び支援を推進する。 ② 自立活動の充実を図る。	活動計画 ① ケース会等を開催し、生徒の実態把握に努めるとともに、指導及び支援の方策を示す。 ② それぞれの自立活動について、内容や取組を調査して整理する。	活動計画の実施状況 ① 全学科、部別、ホームルーム別のケース会、個別の指導計画検討会議を開催し、指導及び支援の方策について検討した。 ② 「学力・学習状況」改善プランの目標に、自立活動の充実を位置づけ、校内の学力向上検討委員会において協議した。	総合評価 (評定) A (所見) 個別の指導計画、自立活動に関する職員研修会を開催するなどして、個に応じた指導、支援について、職員の専門性の向上を図ることができた。	個別の指導計画を卒業後にも活かせるよう、進路先と連携を図ってもらいたい。 教員が生徒の課題などに関して共通理解していることで、ホームルーム担任以外の教員からも助言をもらいやすい。この状況を維持してほしい。 ケース会議は教員が共通理解を図るために有効なので、多忙であると思われるが、充実を図ってほしい。
		評価指標 ① 月1回程度、ケース会等を開催し、指導及び支援の方策について教職員の共通理解を図る。 ② 自立活動に関する検討会を3回程度開催し、自立活動の内容表を作成する。	評価指標の達成度 ① 年間で10回程度、ケース会、個別の指導計画検討会議を開催し、指導及び支援について教職員の共通理解を図った。 ② 学力向上検討委員会及び担当者会を4回開催し、自立活動の内容表を作成した。		
職業教育の充実	生徒の職業能力や意欲等を高める指導を系統的に実施し、職業的自立に結びつける指導を推進する。 ① 生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施するとともに、進路指導に関して、生徒・保護者、関係機関等と共通理解を図る。	活動計画 ① HR担任、事業所等と綿密に連携して就業体験を計画、実施するとともに、生徒・保護者のニーズに応じた、進路に関する相談会を実施する。	活動計画の実施状況 ① 就業体験先の事業所等をHR担任が見学するなどして共通理解を図りながら就業体験を実施するとともに、各学年に応じた進路に関する相談会を学年別を実施した。	総合評価 (評定) A (所見) 拡大進路相談では、個々の生徒の進路に関する課題等について、生徒・保護者、学校、関係機関で共通理解を図ることができた。	現場実習先や就職先の開拓を学校が担うのは大変と思われるが、積極的に取り組んでほしい。 販売実習で、2年生が1年生に教えている場面を見て、就労に向けて生徒の著しい成長を感じた。 卒業後の生活支援などに関して、保護者と福祉機関が連携をとれるよう、研修の機会を設けてほしい。
		評価指標 ① 1年生については進路説明会、2年生については拡大進路相談を実施する。	評価指標の達成度 ① 1年生については保護者対象の進路説明会、2年生については関係機関と連携して個別に拡大進路相談を実施した。		
センター的機能の充実	高等学校及び幼稚園、小・中学校に在籍する発達障がい児に対し、積極的な助言及び支援を推進する。 ① ハナミズキゾーン内の関係機関との連携をより強固にする。 ② 地域の学校に対して、障がいの理解や教育的支援に関する情報提供等を行い、センター的機能を果たす。	活動計画 ① 関係機関との連携協議会に出席することで、情報を共有し連携を図る。 ② 地域の学校からの要請を受け、年間を通して教育相談、研修会への支援等を実施する。	活動計画の実施状況 ① ハナミズキゾーン連携会議、各施設の行事、事業に参加して連携を図った。 ② 地域の小・中・高等学校からの要請を受け、巡回相談員が中心となり、年間を通して相談活動を実施した。	総合評価 (評定) A (所見) ハナミズキゾーン内の連携を一層強化するとともに、地域支援に関しては、特に、中学校、高等学校に対する支援の充実を図ることができた。	ハナミズキゾーンの各施設の行事に、本校生徒がボランティアとして積極的に参加してくれたことにより、ゾーン内の連携が深まった。 社会人の発達障がいの方の状況について知りたいので、講演会、サークル活動などに関する情報を提供してほしい。
		評価指標 ① ハナミズキゾーンの連携会議に月1回出席する。 ② 公開研修会、地域の学校における校内研修への支援を年間10回以上実施する。	評価指標の達成度 ① ハナミズキゾーン連携会議に月1回出席した。 ② 本校主催の研修会を4回実施するとともに、巡回相談員が地域の学校の特別支援研修会での講師を16回務めた。		